

Ⅳ 活動結果

1 全体会等

公開フォーラム（2012年5月29日開催）

* 愛知県健康福祉部医療福祉計画課課長 青柳 治郎氏の挨拶から



行政はこれまで以上に効果的に、効率的に機能を果たしていくのが大前提ではありますが、地域において行政以外のNPO・ボランティア・事業所・住民の方々と福祉のネットワークを形成し、できる範囲での役割を果たし、他の団体や行政と連携して協力し支え合う地域社会を作り上げる必要があります。そういう地域社会が作られなければ支援を必要とするニーズに対応していくことができないと考えています。

こういう思いから、「あいち健康福祉ビジョン」では「地域」という分野を設け、「健康福祉の地域力が充実した社会へ」という方向を構築いたしました。このことは一朝一夕に実現できることではありません。それぞれの事情、実情に応じた形でいろいろな取り組みのなかで根付き広がっていくことと思っています。

県では平成23年度より、「新しい公共支援事業」において、地域における支え合いを推進しています。この「地域における支え合い事業」も、健康福祉の進展にとって大きな鍵になる事業と位置付けています。

* 生活協同組合コープあいち理事長(当時) 寺本 康美氏の挨拶から



コープあちは2年前に2つの生協が合併して誕生しました。その際、どういう生協を目指すのかという話し合いをし、何よりも協同・たすけあいを大切にする、福祉の視点ですべての事業と活動を見直して強めていく生協にと決めました。

そのために、地域のみなさんとの幅広いたすけあい・支えあいのネットワークを拡げていくことを大事にしようと確かめあいました。そういう意味

でこの「地域での支えあい事業」を、愛知県と共に、地域で活動をされているみなさん・今日ご参加のみなさんと一緒に進めることで、コープあいちがより一層地域にお役立ちができる組織に成長できると確信して、この事業に取り組んでいくことをお伝えしてご挨拶いたします。

第1回全体会（2012年6月29日開催）

* それぞれの地域会議での検討結果について発表

* モデル事業で目指したいことについて意見交換

- ① それぞれの地域で活動の対象、すすめる課題を明確にし新しい関係・連携づくりを広げていく
- ② 気軽に相談、困りごとを出せる場づくりを大切に、それを支えるネットワークを広げていく
- ③ 信頼を基礎とした相談活動に連携する支えあう担い手、生活支援のネットワークを広げていく
- ④ 地域のセーフティネットを深める専門家自身のネットワーク、公的機関との連携を広げていく
- ⑤ こうした活動をすすめるため、地域の状況や課題を明確にしていく調査活動も組み立てていく

第2回全体会(2012年10月5日開催)

* 以下の3つのテーマで分科会を開催

＜第1分科会「制度の谷間にある様々な暮らしのニーズへの支援」＞

(主な意見)

- ・ 地域の支え合いの関係が面から線、点へと変化、まちづくりを視野に多様につながりづくりを
- ・ 制度ではできない谷間に、ボランティアや見守り・住民同士のつながりが力になる
- ・ 信頼に成り立つ配慮のうえに個人情報への壁を破ることが課題
- ・ 困ったことの解決対応を一つ一つ積み上げ、担い手、ネットワークづくりをすすめる
- ・ 支え合いマップや支え合いシートの活動は大変意味のある活動、つくっていくプロセスを重視
- ・ 困ったことは自らが発信する、困ったことをお隣さんがたすけあう、まずは小さいことから一緒にできることに足を一步踏み出す街づくりの協働が課題

＜第2分科会「顔の見える関係での相互のネットワーク構築」＞

(主な意見)

- ・ 相談内容の解決率 50%以下という状況や、介護保険制度サービスの縮小、一方ではサービス拒否など、解決できない地域の現状の中の見守り課題
- ・ 困りごとを発見・たすけあうという活動、複合的な困りごとをつなかりで解決する活動の課題
- ・ 地域に住む人により状況は違うからこそ横の関係づくりが大切、やっていることをお互いに知らせ、自分のできることを実施する関係づくりの課題
- ・ 支え合い事業は考え方の合意が必要。活用しあうネットワークに取組む約束ごとをつくる課題

＜第3分科会「地域のインフォーマルな情報を共有するための仕組み構築」＞

(主な意見)

- ・ フォーマル・インフォーマル情報は個の人にとってはひとつ、その組み合わせ・重なりをつくることの課題
- ・ 支援を拒否する人、どんな状況か見えない人が増えてきている、つながりをどうつくるか、地域の連携の中で解決していくことの課題
- ・ 情報を持っている人がいても待っている人は集まらない、気づいている人、何かしたい人は大勢いる、これを集める場や仕組みの課題
- ・ 地域には、地域の住民組織や、事業者、ボランティアなど様々な力がある、これをつなぎ広げていくことと同時に、こうした力を見える化するものの課題

第3回全体会(2012年12月7日開催)

* それぞれの地域会議の活動報告

* 先進地域の見学交流会の実施

* 情報システムの活用についての案内

＜話合いのまとめ＞ 愛知県健康福祉部医療福祉計画課 森川明子主査の挨拶から、

「人と人との暖かいつながりが地域に生まれ、広がっていくことが求められている。高齢者は子供や若い人を育てる・支える経験・知識や力を持っている、そんな役割が発揮できる地域、社会でもありたい。」

コープあいち 八木憲一郎 常任顧問より

「支える人、支えられる人、その支え合いがつながっていったときに計り知れないエネルギーが湧いてくる。若い人も、高齢者の人も一緒になってすすめることが大事、地域の様々な人が一緒に

なってすすめよう。地域支え合い事業の取り組みは巾も具体性も広がっている。各地域の特徴も鮮明になってすすんできている事に確信を持ちました、引き続き広げましょう。」

第4回全体会（2013年3月14日開催）

パネルディスカッション 朝倉美江教授（金城学院大学）のまとめ発言から

地域における支え合い事業について、前半に活動の報告を伺い、後半に課題と今後の展望ということでパネルディスカッションをさせていただきました。多様な支えあい活動が多くの人たちによって取り組まれていることが紹介され、この支え合い事業が活発に取り組まれ、広がりつつあるということはみなさんと共有できたのではないかと思います。

この支え合い事業の初年度に大事にされたことのひとつは、相談活動やアンケート調査でした。地域の活動をする時には、地域にどのようなニーズがあるのか、どういう人々が何に困っているのかを明らかにして活動することがとても重要であり、事業の進め方はとても良かったと思います。

各地域で取り組まれたアンケート調査の中では「買い物」ニーズが多くありました。全国的にも「買い物難民」ということが課題になっています。「買い物難民」の問題とは食材やお弁当が手に入れないということにとどまるものではありません。自分が食べたい、好きなものが食べられて、季節を感じられたり、さらにもっとも大切なのは楽しく食べられるかということです。したがって、「買い物難民」はモノの問題ではなく、人との関係や生活の質の問題であるという視点が重要になります。

また地域での活動として「食事」を取り上げることはとても有効だと言われています。具体的には食事サービスは、食材を作る人、買い物にいく人、運ぶ人もいる、食事を作る人もいれば、一緒に食べる人もいる、地域の中で誰もが参加できる活動です。この地域における支え合い事業でも食事というのはメインの活動・事業になるのではないかと思います。

さらに今回多くの地域で取り組まれていたのは、居場所づくりと見守りネットワークの活動でした。このような人と人が集まってほっとできる場所、自分の自宅以外にもう一つほっとできる場所、家族ではない誰かが身近にいる、そんな優しい、暖かい場や温かい日を地域の中にたくさんつくるという活動が多く取り組みました。

そして地域の活動をするときには、情報活動と学習活動が大切です。今回も認知症サポーターの講習会などが取り組まれていました。地域での活動を展開するうえでは今地域にはどのような問題があるのか、その問題を解決するにはどうしたらいいのか、さらになぜそんな問題が起きるのかという事を、私達は、その時、その時学び続けることが重要です。より多くの人を巻き込みながら学習と情報を共有できる状況を何回も繰り返して継続的につくっていくことが大事だと思います。

それから、課題としてあげられていましたように活動・事業を支えていく組織をどう運営していくかはもっとも重要で難しい課題です。多様な人々や活動をつなぐネットワークをちゃんと支えていく事務局体制をどうするかということです。その事務局を自分達でどのように運営し、その担い手をどう作っていくか、行政や専門職も巻き込みながらつくっていくことが必要です。

そして地域の住民、生協の組合員であったり、農協の組合員であったり、そういう人たちが地域の活動にどれだけ時間とお金をかけられるか。近年貧困が拡大しつつあり、お金の格差やいろんな格差がありますが、誰にも平等なのは時間です。この時間をいかに地域の為に使うか、“地域のことを考えよう、そして活動しよう”という人を1人でも2人でも増やしていきたい。

公的サービスは同じ条件の人には同じサービスが提供されるというのが良いところで、公平性の原則があります。そのことは大事にして、公的な生活保障をより充実させていくことは重要な課題

です。しかし現実的には社会保障、社会福祉サービスの状況は今後ますます厳しくなると私は思っています。

したがって生活保障を税金や社会保険料などによる公的なサービスだけに託しては残念ながら私達の生活は成り立たない。だからこそ自分たちの時間とお金を地域にプールしてみんなで地域の中で支えあい、助け合う活動をつくっていくことが大切になってきます。

最近シェアハウスのような住まい方も注目されつつあります。いろんな共同がもっと増えるといいなと思っています。お一人様もいいなと思っていましたが、相当のお金がないと現実的には無理です。それに最後は、どんな人でも一人ではなにもできないんです。

個人的なことですが、昨年高山市で暮らしている母が倒れて、父が一人で支えざるを得なくなり、最期母は緩和ケア病棟で亡くなりました。その時、親族も近隣も高齢化し、地域の支え合いというのは脆弱化しており、元気なうちに若い人たちも巻き込みながら地域の支え合い活動を自分たちでつくっておかないと、いざという時に使えないということを感じました。そういう意味でもこの地域における支え合い事業が確実にこれからも広がって、さらに発展していくことを心から願ってこのパネルディスカッションを終わりにさせていただきたいと思います。

2 先進地域見学交流会

* 第1回先進地域見学交流会 「集合住宅(森の里)の住民(地縁組織)見守り活動」

【日時】2013年1月18日 午後1時30分～3時

【場所】大高南コミュニティセンター

当日は、東浦町社会福祉協議会の職員、東浦町の民生委員、みなと医療生協職員、名古屋第一法律事務所職員そしてコープあいちの職員を含め延べ20名の参加の見学会となりました。

最初に今回の「地域における支え合い事業」についてコープあいちの向井参与から挨拶。その後森の里荘団地自治会の小池田会長から住民主体のまちづくりをポイントにした報告を頂きました。

特に大規模団地における住民主体のまちづくりに関して緑区大高南学区での3つの活動(①住民生活充実型の活動 ②地域問題解決型の活動 ③個人問題解決型の活動)に関して詳しく説明を頂きました。参加者からは、自治会役員の選出の仕方「なぜこれほどまでに参加が多いのか」「団地における見守りとは」など活発な意見が出されました。

* 第2回先進地域見学交流会 「知多半島で活躍している NPO 法人等の活動」

【日時】2013年2月14日 午前10時～午後3時30分

【場所】 (概要研修) NPO法人地域福祉サポートちた
(先進NPO見学) NPO法人もやい、NPO法人りんりん

当日は、13名の参加で、最初にガイダンスも含めて、地域福祉サポートちたの岡本氏より、知多半島で活躍している NPO 法人等の活動紹介と中間法人としての地域福祉サポートちたの紹介が行われました。

続いて、NPO 法人もやいおよび NPO 法人りんりんを訪問、一つの想いが地域のみんなにつながって、数々の苦労と知恵の出し合いで今日をつくってきた歴史と教訓が紹介されました。

参加者は“実践に裏付けられた、お役立ちしているという力強い自信と信念”に圧倒されていました。